

地区復興まちづくり便りへの意見等 (追加)

※○番号は第 1 回資料で紹介したものの再掲です。

■復興まちづくりについて

- | | |
|---|--|
| 1 | <p>復興にあたっては、今回の震災被害を教訓に後世の人達が同じ被害に遭わないように知恵を出し合い悔いのない計画実行をする事が大切だと思います。そのためにも、堤防の高さ、国道のあり方、土地の嵩上げ、高台移転など最大限のベストを尽くす必要があると思います。</p> <p>また、第 1 回目の検討会の内容を読む限り、復興計画策定にあたり全壊した人、半壊した人、浸水した人、無事だった人の心の底に思いの差があるように思います。全壊した地域では、特に私はまた同じ場所に家を建て住みたいとはとても思えません。将来にわたり安心して暮らせる計画をお願いします。以下、提案します。</p> <p>①今回の震災では、国道 45 号線沿いの建物の被害が大きく、また、その建物が堤防になったお陰で奥の人達は被害が小さく済んだところもあります。是非、堤防を高くするとともに、国道 45 号も愛宕地区から藤の川地区まで嵩上げしてはどうでしょうか。</p> <p>②45 号線沿いの全壊した地域は住宅地とすべきではないと思います。植林などして大規模な公園として活用し、今回被害にあった人達は高台移転や代替地にいまの公園を宅地として活用しても良いと思います。</p> <p>③また、45 号線沿いの全体構想として、鉾ヶ崎地区から街中、藤原、磯鶏、津軽石地区まで大規模なサイクリングロードを作って自転車愛好家でも有名になり全国から人が来るようなサイクリングロードを新しい観光の目玉としてはどうでしょうか。</p> |
|---|--|